

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070201542		
法人名	医療法人 梓誠会 梓川診療所		
事業所名	グループホームあずさ小町		
所在地	長野県松本市梓川梓2344 - 1		
自己評価作成日	平成22年9月27日	評価結果市町村受理日	平成23年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ターミナルに力を入れております。ご家族様と医療との連携で本人が安心して最期まで迎えることができるよう支援をしています。
 年間を通して保育園・梓川小学校の3学年・中学生との交流会をしています。
 花や野菜を育て収穫の喜びや季節を感じていただいています。
 家庭的で穏やかに過していただいております。ご家族様も面会をゆっくりされています。
 毎週日曜日に非常ベル通報により避難を習慣づけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このグループホームは、1階が玄関・エントランスホール・ダイニング・フリースペースなどの共有空間、2階が居室9部屋で広々とし、なおかつ消防設備を十分整え、避難訓練などを工夫して、利用者が安全に過せるよう配慮している。
 また、同法人の診療所・リハビリテーションが隣接しており、12月には老人ホームも建設され、密接に連携しているので、利用者が安心して過せる施設でもある。
 さらに、職員が利用者一人ひとりの担当を分担し、本人の意向を大切に介護支援に取り組んでいるので、ディサービスの3人を含め、笑顔が絶えないグループホームである。

事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070201542&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成22年10月28日

ユニット名()			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送りの際、皆で音読して理解し、日々の仕事につなげている。又、常に理念を携帯している。	理念を基に毎年の運営方針を立て、実践につなげている。職員は理念が印刷された名札を付け、朝の申し送りの時に理念を音読し、自覚して一日がスタートできるようにしている。	グループホームの理念が、利用者や家族、また広く地域に知られ、理解されてゆくように工夫されることを期待したい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校、中学校の生徒さんとの交流、保育園児との交流。常にボランティアの受け入れはしている。	地域の保育園児、小学校児童、中学校生徒との交流を楽しんだり、地域のボランティアとの活動を楽しんだりしている。	同法人の診療所、通所リハビリテーション、新しい老人ホームとも連携して、さらに地域との交流を広げてゆくことを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の皆様や包括の方々と2ヶ月に一度は話し合いを持っている。施設内での勉強会がある時は地域の方に声掛けをしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話や他施設の方々の意見などグループホームでのミーティングで取り上げている。	運営推進会議のそのつど、出席できる家族の方の意見を聞いたり、近くのグループホームの方も参加していただき情報交換したりして、様々な話題について話し合っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市の担当者の方が来所され、連携をとっている。情報を得る。	市の連絡会、研修会、講習会などに参加したり、市の担当者と連携して情報交換を行ったりしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ。安全を図るためベルトを短時間。検討会などを通じて解除に向けて取り組んでいる。	車椅子で移動する際体を動かして危険であると、家族とも話し合い短期間ベルトを着用したことはあったが、常に身体拘束防止について話し合っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングの場で事故報告書やヒヤリハットの問題点を話し合ったり、接遇やマナーを定期的に取り上げ話し合っている。研修会も参加している。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	こちらでは必要な方があるかどうか、家族と検討している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、書類の文章の説明をしている。理解されている。問い合わせ時にも、理解が得られる様説明する。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会時に意見要望等聞く。意見箱を設置して家族の声を聴く。	年3回家族会を開き、その時に開催される運営推進会議にも出席していただくようにして、家族等の意見を反映できるように取り組んでいる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部署より責任者が会議に出席する。要望や改善など報告し、管理者は意見を取り入れている。	職員は、月1回のミーティングで話し合っほしいことを「なんでもノート」に記入し、ミーティングで話し合われたことは管理者が法人内の会議で伝え、話し合っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回評価を行い改善すべき事を合わせて把握している。また、責任者会議にだされた改善事項など決定した事は実施している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会に、皆が参加している。施設内での勉強会も毎月行っている。新人研修プログラムあり。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の推進会議に参加させて頂いたり、施設内の勉強会にお誘いしたりと交流がある。地域のグループホーム会に参加している。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談や施設見学や自宅での生活状況を聴き、本人の希望、要望等取り入れて安心、安全な生活を送っていただける様、努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学をしていただいたり、事前面接時にご家族様の要望や困難状況を聞く。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を把握して何か不足しているか、他のサービスも紹介してご家族様の支援もしていく。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる仕事を提供し、スタッフと一緒にできる喜びを味わう。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内での様子や体調管理など、ご家族様に常に連絡を取っている。一ヶ月に一回メッセージカードを届けている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て、面会や外出、外泊の機会をもうけている。	利用者の実情に応じ、家族の協力を得ながら、地域のお祭りや法事などに出かけられるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人レクや集団レクで関わりを持つ。又、行事など一つの事に皆で参加して喜びを共有する。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用中止になっても相談があれば受け入れる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人主体に努めている。 希望、意向が届くよう、利用者の担当は密接な関わりを図っている。	利用者が言ったり、行動したりすることについて、毎日個人記録をとり、利用者の担当職員を中心に思いや意向の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報を集め、生活史を把握している。ご本人に解る所を聴く。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の希望や、体調に合わせたすごし方を把握し、各自のペースに合わせている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングなどでカンファレンスをして皆の意見を聞き、作成している。	利用者一人ひとりの「できること探しの介護計画」を推し進め、月1回のミーティングではノート記録を基にカンファレンスをして、見直しに活かしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、ミーティングでも報・連・相を実施している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居室の移動などで見守りのできる環境を整える。要望があれば外泊の送迎など柔軟に対応できる様取り組んでいる。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館の利用などあるが十分に活用できていない。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、本人の希望で診療所で安心した生活を支援している。歯科の往診もしてもらっている。	法人内の診療所(内科)が隣接し、また認知症専門医でもあることなど、安心して適切な受診支援がされている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常に在籍して、体調管理を行っている。特変事には医師に連絡を取る。又、相談やアドバイスも受けられる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設内での体調記録や内服薬などの情報提供を行っている。又、入院時にはお見舞いなど様子を伺ったりご家族様との連絡を取ったりする。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、本人、医師と終末期の話し合いをして、方針を共有し、支援に取り組んでいる。	グループホームでは、「終末期ケアマニュアル」を作成し、事前に家族・医師との終末期に向けての話し合いを通して利用者支援を行っている。グループホーム内で実際に看取することもあった。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制やマニュアルを作成し、それにそって対応している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練を行っている。地域の方にも協力を得ている。避難訓練として毎日曜日に非常ベルによる誘導を行っている。	スプリンクラーを5月に備え、消防設備が充実している。また、毎週日曜日午後3時に非常ベルによる非難誘導訓練などを通して、常日頃からの態勢づくりをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングで接遇の話し合いを持つ。又、人生の先輩ということを入れている。	職員は、利用者と接する時には、笑顔で、穏やかに心をかけ、特に言葉遣いには留意して、対応していた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との関わりを大切に、本人の意向に添って過して頂けるように皆で統一を図っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせた暮らしを支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に入浴、散髪を行っている。季節に合った服装や、本人の好きな服装選びを大切にしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を栽培し収穫したものを食べたり、皮むきをして頂いたりしている。食器洗いも手伝っていただいている。又、食べられる量や形なども一人ひとりに合ったようにしている。	利用者一人ひとりの実情に応じて、場所や時間を変えたり、その力に応じて、手伝いをしてもらったりして、職員と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の少ない方はチェック表を付けたり、食べられない方には形を変えたりして、適切な栄養が確保できるように支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを実施している。自力でできない方にはスタッフが支援して清潔保持に努めている。口腔内に異常発見時は協力歯科医に連絡を取っている。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表など付けてその方の排泄パターンを把握する。声掛けや時間での誘導などその方に合わせた支援を行っている。立位のできる方はトイレへ行かれる。	職員が利用者一人ひとりの排泄の様子を理解し、利用者になるべく自分でできるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や散歩などで体を動かしたり、牛乳や寒天などの食物などで工夫をしたりしている。薬に頼らない取り組みをしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回入れる。土、日、水、木のうち2回入浴する。その日の気分や体調に合わせて実施している。	利用者の体調などに合わせ、午前中でも入浴できる態勢をとっている。また、入浴介助の必要な利用者には支援が十分できるように取り組んでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間に関係なくその方の体調や、気分にあわせ、又、疲労感があれば常に休めるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者が一人ひとりの薬を把握し、薬の増減や変更など又、症状の変化など記録に残し医師に報告している。スタッフ全員が服薬マニュアルに添って支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの力を活かした役割はできている。気分転換の散歩や、日光浴など支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車を使って季節の花や風景を楽しむよう、屋外に出かけたりする。家族の協力を得て外出や外泊もされている。	グループホームの周りを散歩したり、散歩がてら買い物したりできるように支援している。また、季節に応じて車で的外出を行い、楽しんでいる。	

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理は施設側で行っている。本人の希望に応じ小遣いは使用している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話は常に掛けられる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃を行い、衛生面に配慮している。又、刺激防止のために防音、カーテン空調等の工夫をしている。テラスでは花や野菜を育て季節感を取り入れている。花を生けている。	1階にエントランスホール、ダイニング、フリースペースなどの共有空間が広くとってあり、フリースペースではサービスの利用者ともゆとりと交流できるようになっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フリースペースにソファを置いて、ゆっくり体を休める場所を提供している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具や備品を持ち込み使用していただいている。	2階に利用者全員の居室があり、利用者それぞれが自分の物を持ち寄り、安心してくつろげる空間になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居宅等表示で利用しやすくしている。見守りや声掛けでお互いの疎通を取っている。		